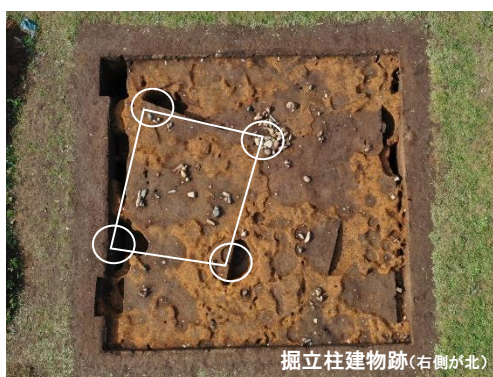


5. ^{はってんせき}八天遺跡（国指定史跡：更木）―縄文人の死と祈り―

調査期間 4月16日～11月30日 **調査理由** 内容確認 **調査概要** 何度も建て替えられた大形円形建物跡と、耳・鼻・口形土製品（重要文化財）などがみつき、国指定史跡となりました。これまでに7次にわたって調査が行われています。今年度は昨年度に引き続き、史跡の本質的な価値を再検討し、保存・活用する計画を作るために調査を実施しました。今回の調査では、盛土遺構1か所、掘立柱建物跡1棟、配石を伴う土坑5基、土坑約40基などがみつけられました。墓域の調査では、配石遺構を確認しました。また、盛土遺構からは縄文時代後期(約4,400～3,700年前)のものとみられる土器がたくさんみつけられました。盛土遺構が長い年月をかけて営まれた「もの送り」の場であるのか、もしくは短期間に行われた地形造成の結果であるかは今後の課題です。



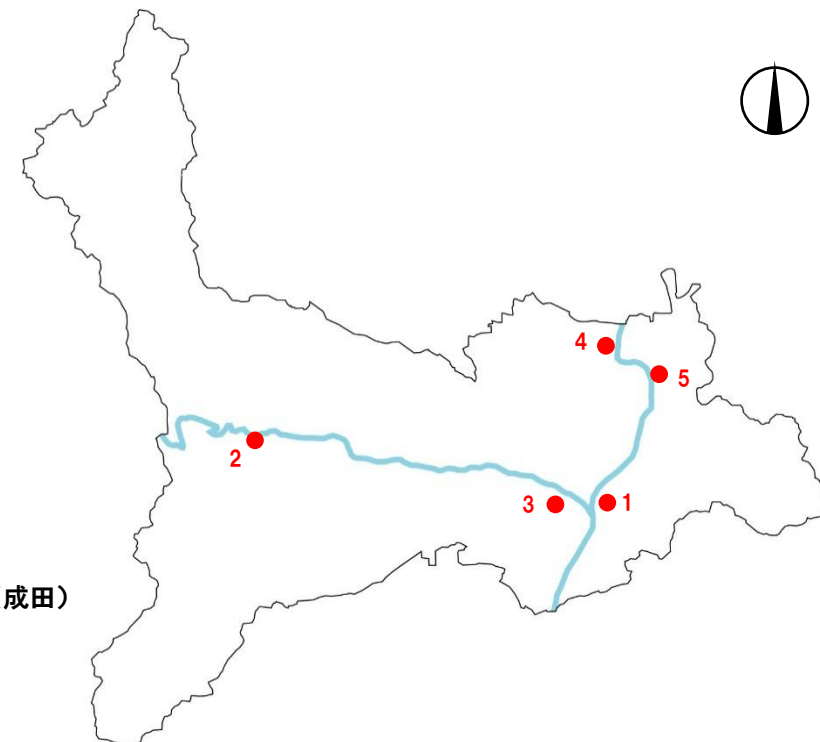
令和3年度 北上市発掘調査概要

北上市立埋蔵文化財センター

はじめに

北上市立埋蔵文化財センターでは令和3年度、市内の5地点で発掘調査を行いました。道路建設、宅地造成などの開発により消滅する埋蔵文化財を記録保存するための調査が多いですが、史跡を保存・活用するための内容確認調査も行っています。発掘調査の成果をご覧頂き、地域の歴史に思いを巡らせて頂ければ幸いです。

1. 立花南遺跡(立花)
2. 下仙人館跡(和賀町岩沢)
3. 丸子館跡(下鬼柳)
4. 成田岩田堂館跡(成田)
5. 八天遺跡(更木)



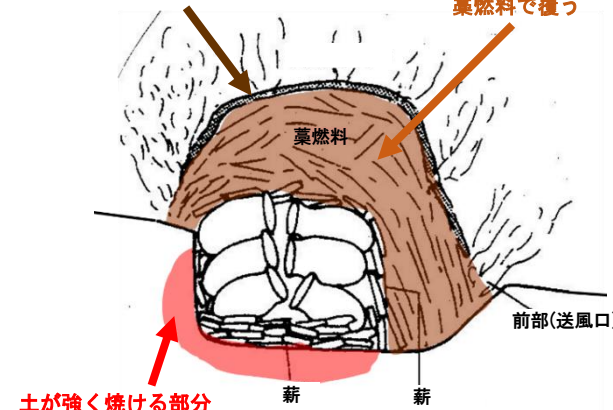
1. ^{たちばなみなみせき}立花南遺跡（立花）

―奈良～平安時代の土器作りのムラと焼けた家―

調査期間 9月1日～10月19日 **調査理由** 個人住宅建設 **調査概要** 奈良時代～平安時代初頭（8世紀後半～9世紀初頭）の竪穴住居跡2棟、土師器焼成遺構6基がみつけられました。住居跡のうち1棟は火事にあったとみられ、炭化した部材やたくさんの焼土が床の上に残っていました。土器を焼いた穴（窯）＝「土師器焼成遺構」が立花南遺跡では過去の調査で18基みつかっています。市内では他にも土器生産遺跡が多数報告されており、北上市は岩手県内では土器生産の中心となっていたと考えられています。今回の調査地点は遺跡内でも土器生産関連の遺構が集中する工房群の一角であったことがわかりました。

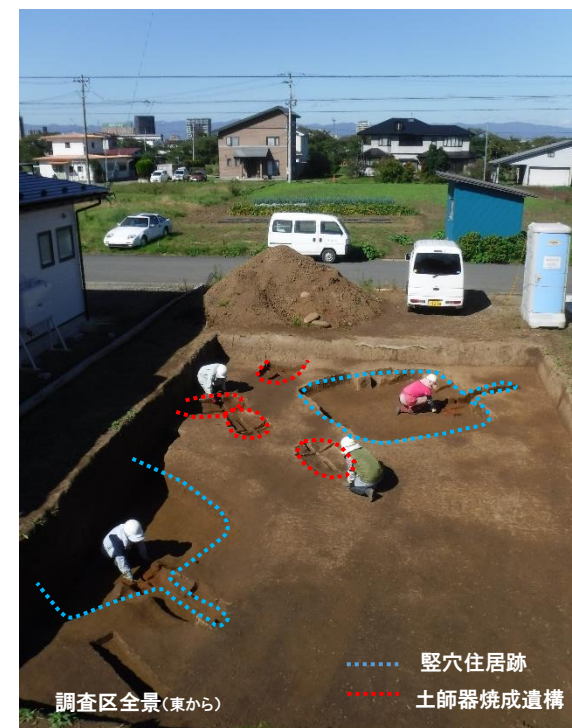
窯の表面を灰や泥で覆う

窯燃料で覆う



土が強く焼ける部分

土師器焼成遺構の使用方法



2. ^{しもせん にんたてあと}下仙人館跡（和賀町岩沢）
—多聞院伊澤家に関わる城館か—

調査期間 7月13日～8月24日 調査

理由 消防防災道路建設 調査概要 下

仙人館跡は北側を和賀川、東側を沢で区画される、自然地形を利用した城館で

す。15世紀後半には既に利用されていた

とみられ、館の西側には国指定重要文化

財の^{たもん いん いさわけ じゅうたく く な と じんじや}多聞院伊澤家住宅と久那斗神社が立

地します。今回の調査では、腰郭状平場

（以下、平場）に調査区を設定したほか、詳

細測量図を作成しました。平場には1970年代の数年間に人が居住していたと

のことで、当時のものとみられる遺物も

みつかりました。当初は平場から中世の建物跡の検出を予想していましたが、平場全体が現代に削平を受けて

いたことがわかりました。平場の造成は中世に遡る可能性もありますが、詳細な時期はわかりませんでした。来年度も引き続き調査を行う予定です。



腰郭状平場全景（北西から）



上空からみた下仙人館跡（北西から）



（表）



（裏）

平場からみつかった
コカ・コーラの瓶
(1970年代)

3. ^{まるこ だてあと}丸子館跡（下鬼柳）
—縄文・古代のムラと幢幡遺構—

調査期間 5月10日～6月15日 調査理由 アパ

ート建設 調査概要 縄文時代中期中葉(約5,000

年前)の竪穴住居跡1棟、土坑6基、焼土遺構1

基、古代の竪穴住居跡1棟、柱穴列2基などがみつ

かりました。古代の柱穴列は形状から幢幡遺構(仏

教儀式に使われた^{はたざお}旗竿を立てた遺構)と考えられ

ます。出土遺物から9世紀後半頃に成立したと考えら

れ、当時この周辺に仏教に関連する施設があった可

能性があります。



調査区全景（北西から）



4. ^{なり た いわち どうちてあと}成田岩田堂館跡（成田）—縄文時代のムラの跡—

調査期間 10月27日～12月14日 調査理由 鉄塔建設 調査概要 縄文時代の竪穴住居跡が3棟、土坑が4

基、小穴群がみつかりました。縄文時代の竪穴住居跡は炉跡やみつかった土器の特徴から、縄文時代中期前～中

葉(約5,500～5,000年前)頃のものと考えられます。調査区の周辺からは、過去の調査でも同時期の住居跡がみつ

かっています。今回の調査区は、当時のムラの一部であったと考えられます。

